

「さくらももこおすすめ集」をつくることを通して、随筆のよさを味わわせる。

第6学年1組 国語科学習指導案

指導者 山口 慶太

1. 単元名 12歳～時を超えたエッセイ集～

2. 学習材 『随筆を書こう』(教育出版 6年上)
『もものかんづめ』(さくらももこ著 集英社発行 1991年初版)【共通学習材】
『さるのこしかけ』(さくらももこ著 集英社発行 1992年初版)
『たいのおかしら』(さくらももこ著 集英社発行 1993年初版)
『あのこと』(さくらももこ著 集英社発行 1996年初版)
『まる子だった』(さくらももこ著 集英社発行 1997年初版)
『ももこの話』(さくらももこ著 集英社発行 1998年初版)

3. 単元について

(1) 本単元でつきたい力

本単元では、主に、小学校学習指導要領・国語〔第5学年及び第6学年〕の「B書くこと」における以下の能力を身に付けさせることをねらいとしている。

B 書くこと

- | | |
|-------|--|
| 内容 | ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。 |
| | イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 |
| | ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 |
| | カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。 |
| 言語活動例 | ウ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。 |

本単元では、さくらももこ著の『もものかんづめ』を共通学習材として読み、自分の気に入ったエッセイを集めておすすめ集をつくる。その後、これまでの自分の経験を想起しながら、そこから得た自分の考えを随筆として述べていく。『さるのこしかけ』『たいのおかしら』『あのこと』『まる子だった』『ももこの話』といった、さくらももこ著の他のエッセイ集も並行読書として読み進められるよう環境も整える。さらに、読書の時間、朝のチャレンジタイムの時間も使いながら、さくらももこ以外の著名人のエッセイも読み進め、多くのエッセイと出合えるようにしていく。

これらの学習を通して、エッセイの特徴や巧みな言葉遣い・表現方法を子どもたちの中で醸成していき、自分の考えや経験したことを、読み手により伝わるような表現の工夫を身に付けさせたい。

(2) 本単元で行う言語活動

本単元では、さくらももこ著の『もものかんづめ』を共通学習材として読み、自分の気に入った話を集めて「さくらももこおすすめ集」をつくった後、自分のこれまでの経験を想起しながら自分の考えを随筆として書くという言語活動を行う。これは、小学校学習指導要領「B書くこと」における、言語活動例「ウ 事実や経験を基に、感じたり考えたりしたことや自分にとっての意味について文章に書く活動。」を踏まえている。

「さくらももこおすすめ集」は、20×20マスの作文用紙『作文くん』(新学社)を使用する。子どもたちは、4学年よりこの『作文くん』を使用しており、行事作文や国語の学習における書く活動において、その都度この『作文くん』に書いてきた。さくらももこエッセイから自分の気に入ったエッセイを選ぶ際には、「題名」「挿絵」「あらすじ」「おすすめポイント」の4つを書くようにするが、それらも文章で書く必要があることから、原稿用紙形式の『作文くん』を使用することがふさわしいと考える。しかし、それらをかく際、原稿用紙のマス目が入っていることに煩わしさを感じる子どもや自由にレイアウトを考えたい子どももいることが予想される。そのため、白紙のものや複数のレイアウトが施されたものを用意し、それらを使ってもよいこととする。

まず、「さくらももこおすすめ集」1枚目には、自分が気に入ったエピソードの「題名」と「挿絵」をかく。『もものかんづめ』には、エッセイ1つにつき、挿絵も1つついている。それらは、子どもたちも

『ちびまる子ちゃん』で見慣れているさくらももこ特有の絵が描かれているため、それを真似てかくことで、子どもたちの関心もより高めることができると考える。また、さくらももこエッセイへ関心が高まった子どもたちからは、「もっと読みたい。」という意欲が出てくることが予想される。そういった子どもたちの関心をより高めるためのタイミングも見計らいながら、『もものかんづめ』『たいのおかしら』『さるのこしかけ』『ももの話』『あのこと』『まる子だった』などのエッセイ集も教師から子どもたちに紹介し、多読へと繋げるようにする。また、おすすめ集の中には、それらのさくらももこ著のエッセイも入れてよいこととする。そのため、題名の後に、選んだエッセイが載っている本の名前も書くようにする。

2枚目には、「あらすじ」を書く。エッセイのおおまかな内容を捉え、あらすじとして書くことを通して、さくらももこエッセイの内容をもう一度読み直す必要がある。さくらももこエッセイを繰り返し読むことで、エッセイの特徴に自然と触れられるようにしたい。また、全国学力学習状況調査の結果からみても、文章の大まかな内容を捉える力に課題がみられるので、文章から大事な言葉とおおまかな内容を捉えさせ、それを文章として端的に表す力をつけることにも繋げていきたい。

3枚目には、おすすめポイントを書く。どうして、このエピソードを選んだのか、おすすめポイントを書かせることで、さくらももこエッセイや自分のおすすめ集への愛着を高めていくようにしたい。また、その中にも、おもしろ度、おすすめ度、納得度の3観点で5段階評価としたものを★で表すようにする。読者が読んでおもしろい、と感じるように共感を得ることができる点もエッセイの特徴の1つである。それらを★で表すようにすることで、エッセイの特徴を潜在的に気付かせられるようにする。しかし、エッセイによっては、爆笑度、そうなんだ度など、他の観点でもおすすめしたいと思うものもある。それも、子どもたち自身で考えさせ、子どもがおすすめしたいと思ったポイントを使ってもよいこととする。

そうして、さくらももこエッセイから3つのエピソードを選んでおすすめ集をつくり、その後、『作文くん』に自分の随筆を書くようにする。その際、子どもたちの「書きたい」という思い、随筆を書くのが「楽しい」という思いを尊重するために、枚数制限や文字数制限は設けないこととする。また、今年度より1人1台タブレットが導入され、これまでの国語の学習の中でも、文章を書く際に、タブレット内のWord(Microsoft社)を使用したいと考える子どももいたため、それを許容してきている。今回の随筆でも使用したいと願う子どもがいた場合には、タブレットを使用して書いてもよいこととする。さらに、随筆を書くために、様々な学校行事や日々考えたことがある度に「ネタ帳」に書き記すようにしている。何を書いたらよいかわからない子どもに対しては、書き溜めた「ネタ帳」を頼りにしたり、考えるヒントとなりそうな題名を20個以上用意したりして、そこから着想を得て書きやすいようにする。

(3) 学習材について

本学習材『随筆を書こう』は、以前より「教育出版 ひろがる言葉6年上」にて取り扱われている学習材である。以前は、読む領域としての随筆の学習は1学期に行い、書く領域としての随筆の学習は2学期に行われる指導計画になっており、教科書もそのように構成されていた。しかし、学習指導要領改訂に伴って教科書の構成も変わり、昨年度より、読む領域の随筆学習と書く領域の随筆学習が連なる構成となった。これは、子どもの思考の流れを考慮して、随筆への関心を高め、自分の考えを随筆として表現する際に書くことへの抵抗を減らし、よりよい随筆を書くために意図されたものと推察できる。

しかし、今回は書く領域としての随筆の学習を2学期に配置した。随筆は、筆者が見たことや聞いたこと、経験したことなどを描写しながら、自分のものの見方・感じ方、考えを、広い読者を想定しながら、読者に納得や共感を呼ぶように書いた文章である。つまり、筆者が経験したことを通して、自分の考えを述べる必要があることから、多くの経験やその時の思い・考えたことが、文章に色濃く出るのである。子どもたちは、小学校生活最後の1年を迎え、1学期だけでも多くのことに思いを馳せながら日々を過ごしてきた。入学式の準備や1年生のお世話に始まり、全校を引っ張っていく運動会などの大きな学校行事、友達とのかけがえのない日々、といったように、それぞれが様々な思いを抱えながら学校生活を送っている。さらに、夏休みや、芸術鑑賞教室、マラソン大会、子どもたちにとって大きな行事の1つである修学旅行などが2学期にあり、それぞれの行事に「小学校生活最後の」と枕詞のようについてくる。特に、今年度の6年生は、昨年度、新型コロナウイルスの影響で様々な行事が中止・縮小されてきた。そんな中迎えた6年生では、感染症対策をとりながらも、様々な行事が行われてきている。そんな5年生までの学校生活では味わえない経験を、それに対する思いを巡らせることで、より深みのある随筆が書けるはずである。以上のことから、2学期末に随筆を書く単元を配置する有効性を捉えている。

本単元では、共通学習材として、さくらももこ著の『もものかんづめ』を用いる。言わずと知れた『ちびまる子ちゃん』は、国民的アニメであり、主人公のさくらももこは、そのまま原作者さくらももこの名前を用いていることも、日本国民ほとんどが知っていることであろう。それはもちろん、大人だけでなく子どもも同じである。『ちびまる子ちゃん』は、1986年8月号の『りぼん』から連載が始まり、1990年1月7日からフジテレビ系列にて、アニメとしても放送されている。残念なことに原作者である、さくらももこは、2018年に53歳という若さで亡くなったが、その後もアニメは放送され続け、声優やナレーターも変わりながら、今もなお日本国民に愛されるアニメの1つである。そんな国民的アニメの原作者であるさくらももこは、子どもたちにとっても身近な存在であるといえよう。そのさくらももこが、初めて書いたエッセイが1991年に集英社から発行された『もものかんづめ』である。さくらももこ初のエッセイ集でありながら、累計発行部数は100万部を越え、大ベストセラーとなり、発行から30年経った今も重版を繰り返すなど、人気エッセイ集となっている。さらに、アニメ『ちびまる子ちゃん』のさくらももこ役の声優 TARAKO が全編朗読したオーディオブックも今年発売されている。以上のことから、『もものかんづめ』を共通学習材として読み進めておすすめ集をつくることで、随筆をかく際の手助けとなるであろう。

さくらももこ以外にも、映画監督の三谷幸喜氏、タレントの伊集院光氏など、子どもたちにとって身近な存在の著名人も随筆・エッセイを執筆し、出版もしている。それらは、その時代の人の言葉遣いや感じ方、筆者独自のものの捉え方や感じ方が文章中に如実に表れており、それが随筆のおもしろさの1つとなっている。さらに、随筆には、意図的な文章構成、巧みな表現技法、読者が想起しやすい経験の選択など、筆者の考えを読者に伝えるための工夫が随所に施されている。そういった随筆のおもしろさに気が付けると共に、自分が随筆として表現する際に、そういった意図ももたせて書かせることで、その有効性を実感させ、自分の考えを表現するおもしろさを味わわせたい。

(4) 子どもの実態 (男子14名 女子18名 計32名)

子どもたちは、これまで「雪は新しいエネルギー」において、館山市で使える再生可能エネルギーを記した「地球温暖化防止対策ノート」、「物語を作ろう」において、オリジナルの物語を書き、それを「クラスで本にして出版する」というような書く言語活動を行ってきた。その中で、自分ができた作品を持ち寄ってペアで読み合い、一方が作品に関する質問をして、もう一方がそれに対して答える「ライティングカンファレンス」との手法を用いて、自分の作品を自ら見つめ直す推敲を行ってきた。その質問には「書き出しで工夫したところは？」や「どんな表現の工夫があるの？」「どうしてこの文章構成にしたの？」といったものがあつた。書き出しで工夫したところに対する答えに困る子どもは誰もいなかった。子どもたちなりに、書き出しで読者の興味をひきつけることの必要性を感じており、その有効性も実感しているようだった。実際に、子どもたちの作品をみても、会話、問いかけ、昔話風、というように書き出しに工夫がみられた。

一方で、どんな表現の工夫をしたのか、文章構成の意図を聞かれると答えが詰まる子どもがほとんどだった。ライティングカンファレンスでは、ペアを変えて3人と交流できるようにし、同じ質問に答えるようにした。そうすることで、自分の作品と何度も向き合い自分の考えが明確になるからである。上記の質問には、1回目では答えにつまるものの、2回目、3回目と重ねることで少しずつ答えられていた。子どもたちは、これまでの学習で「川とノリオ」や「大造じいさんとがん」、「ごんぎつね」など表現技法や文章構成が秀逸な様々な文学作品と出合ってきた。その中で、子どもたち自らその表現技法に気づき、そのよさも学んできた。それでも、自らの作品でどこにどう生かされたか実感するまでには至らなかったようである。しかし、答えにはつまるものの、子どもたちの作品にはそれらが随所に表れている。それは無意識的に使われているもので、意図的ではなかったと窺える。無意識に使用するよさもあるが、子どもたちには、それらを意図的に使い、それが自分の考えを読者に伝えるために有効であると実感させたい。そこで、本単元では、さくらももこ著の『もものかんづめ』を読んでおすすめ集をつくることにした。さくらももこ著の随筆には、比喩などの表現技法が巧みに使われており、書き出しから読者を惹きつけ、最後には「落ち」がきて、読者をくすつとさせる文章構成も意図的なのである。そんなエッセイを多く読むことで、巧みな表現技法、意図的な文章構成のよさを涵養させ、自分の随筆にも表せるようにしていく。また、ライティングカンファレンスの質問項目も再考し、文章を書く際に工夫したことに自分で気がつけるようにして、その有効性を実感させたい。さらに、年度始めには「文章を書くことが苦手」と感じる子どもが半数以上いたので、自分の考えを表現するおもしろさを味わわせることで、子どもたちが、「文章を書くことが楽しい」「書いてよかった」と思えるようにしたい。

(5) 指導観

〔見出す〕

□本時（本単元）の目標（めあて・ねらい）を児童に明示する。

①学習の見通しをもたせ、主体的に学習に取り組ませるために、子どもたちと単元計画をつくる。

第1次では、教師が作成したモデルを提示し、子どもたちに「自分も書いてみたい」という意欲をもたせる。教師モデルのよさを分析し、「さくらももこおすすめ集」をつくるためにはどうしたらよいのか考え、学習の計画を一緒に立案していく。そして、それを見える化してクラスに掲示しておくことで、学習の見通しをもたせ、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

〔自分で取り組む〕

□児童が自ら情報を収集し調べることができるように、環境等を用意する。

②「もののかんづめ」を1人1冊購入し、共通学習材として読み進める。

さくらももこ著の『もののかんづめ』を共通学習材として1人1冊購入して読み進め、その中からお気に入りのエピソードを3つ選び、おすすめ集を編んでいく。子どもの関心を高めるため、アニメ『ちびまる子ちゃん』で、さくらももこ役の声優を務める、TARAKO が朗読しているオーディオブックを使用して作品と出合わせる。その後は、個々で読み進めることとするが、ルビの振っていない漢字があったり、文字を読み進めることを苦手とする子どもがいたりするため、授業内において、別室でオーディオブックを使って作品を読み進められるようにする。また、他のさくらももこ著の随筆集も用意し、多読コーナーとして設置することで多読にも繋げていきたい。さらに、三谷幸喜氏や伊集院光氏などさくらももこ以外の著名人の随筆をたくさん紹介することで、人によって様々なものの見方や考え方があり、それに対する考えも多様にあることに気が付かせ、エッセイ・随筆のおもしろさを味わわせたい。

〔広げ深める〕

□児童が「見方・考え方」を働かせながら根拠とともに自分の考えを伝えることができるように、伝えるときに意識すべきことを指導する。

③さくらももこのエッセイから、よい随筆とは何か捉えさせ、虎の巻にする。

さくらももこおすすめ集を編んだ後、自分の随筆を書く。その際、さくらももこが書いた随筆をおもしろくさせている要因は何か、全体で共有を図る。それを、虎の巻として端的な言葉で表し、クラスに掲示しておくことで、子どもたちが随筆を書く際の手助けとしたい。また、これまでの学習を頼りにして、ライティングカンファレンスの質問項目を子どもたちと一緒につくることで、子ども主体の学びとなるようにする。

〔広げ深める〕

□児童が多様な考えを理解できるように、互いに学び合う場面を設定する。

④ライティングカンファレンスをして、自分の作品を自ら見つめ直したり、互いの随筆のよさを味わったりする。

「雪は新しいエネルギー」、「物語を作ろう」に続いて、ライティングカンファレンスの手法を用いて作品の交流をする。相手から質問されたことに答えることで、人に批判されながら推敲するのではなく、自分自身で自分の作品を見つめ直せるようにする。それを3回繰り返すことで、漠然としていた自分の考えをより明確に、より豊かにすると共に、自分の作品への愛着も高められるようにしたい。さらに、友達と作品を読み合うことで、友達の表現や考えに触れたり、そのよさを伝え合ったりすることで協働的な学び合いによる相互作用の価値も再認識させたい。

〔まとめあげる〕

□児童が板書やノート、作品等を通して思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる場面を設定する。

⑤単元の最後に3観点で、自分の学びを振り返らせる。

単元の最後には、①「おすすめ集をつくるために、たくさんの随筆を読んでみてどうだったか。」②「自分の考えを表現するために工夫しながら随筆を書いてどうだったか。」③「学習する前と比べて変わったこと・ついた力は何か。」の3観点で振り返りを行う。そうすることで、子ども自ら自分の学習を振り返り、自分自身が成長したことを認め、達成感や成就感を味わわせると共に、メタ認知能力の向上

も図っていく。

4. 単元の目標

【知識・技能】・・・㊸

○随筆の特徴を知り、自分の考えを表現するために、共感を得やすい体験を切り取ったり、表現を工夫したりすることができる。(1 (1) ク)

【思考・判断・表現】・・・㊹

○表現技法や意図的な文章構成の良さに気が付いて、その効果のちがいを感じながら文章全体の構成を考えることができる。(2B (1) イ)

○ライティングカンファレンスを通して、文章に対する意見や考えを伝え合い、友達や自分の文章のよいところを見つけることができる。(2B (1) カ)

【主体的に学習に取り組む態度】・・・㊺

○学習の見通しをもち、様々な様式の紙や手段から、自分に必要・最適なものは何か考えながら学習に取り組んでいる。

5. 全体指導計画

		主な学習活動	○教師の留意点 ☆評価（方法）
第一 次	時 1	教師モデルと出会い、単元のゴールを知り、学習の見通しをもつ。 ・どのような学習をしていけばよいのかを見通して、学習計画を立てる。	○教師モデルを紹介し、単元への意欲化と学びの見通しを図る。 ☆どのような学習をすればよいのか、学習の見通しをもとうとしている。（㊸態度・発言）
	2	『もものかんづめ』と出合う。 ・オーディオブックで「奇跡の水虫治療」（『もものかんづめ』収録）を読み聞かせる。	○TARAKO の朗読によって作品と出合わせることで関心を高める。 ☆さくらももこのエッセイのおもしろさに気付いている。（㊹態度・発言）
	3 4 5	『もものかんづめ』を読み進める。 ・自分で読み進めるか、オーディオブックの朗読で読み進めるか選ばせる。	○自ら読み進めるのに抵抗をもたせないために、オーディオブックで読み進めてもよいこととする。 ☆『もものかんづめ』を読み進めながら、さくらももこ独自の視点や巧みな言葉遣いに気付いている。（㊹態度・ノート）
	6 7	さくらももこおすすめ集をつくる。 ・お気に入りのエッセイ3つを選び、「題名」「挿絵」「あらすじ」「おすすめポイント」をかいいて、おすすめ集を編んでいく。	○原稿用紙形式の『作文くん』、複数のレイアウトが施された紙、真っ白な紙を用意し、使いたい形式を選ばせる。 ☆自分の学習に最適なものは何か、考えながら取り組んでいる。（㊸態度・ノート）
	8 9	随筆を書く。 ・編んだおすすめ集や書き溜めたネタ帳、ヒントとなる題名を基に随筆を書く。	○子どもの要望に応じて『作文くん』、タブレットを使用した Word、どちらを使ってもよいこととする。 ☆自分の学習に最適なものは何か、考えながら取り組んでいる。（㊸態度）
	第二 次	1 0 本 時	友達と文章を読み合い、カンファレンスを行う。 ①1番伝えたいことは何？ ②どうしてそれを伝えたかったの？ ③そのために工夫したことは？ ④出来は何点ぐらい？ ⑤困っていることはある？ の5項目を質問した後、フリートークを行う。 ・3人以上とカンファレンスを行えるようにする。
1 1		清書をする。 ・書き直したいと思う子どもは書き直し、完成した子からおすすめ集の後ろに自分の随筆を入れ、さくらももこおすすめ集を完成させる。	○前時のカンファレンスを基に、書き直したいと思う子どもは書き直せるようにする。 ☆自分の作品やさくらももこエッセイを見つめ直し、それぞれのよさに気がついている。（㊸発言・態度）
第 三 次		1 2 振り返り ①たくさんのエッセイを読んでどうだったか。	○左記の3観点で振り返らせることで、達成感や成就感を味わわせ、自分の成長に気付かせる。

次	②表現を工夫してどうだったか。 ③学習する前と比べて変わったこと の3観点で振り返りを行う。	☆表現豊かに表すよさを実感し、単元全体の振り返りを行っている。(㊤発言・ノート)
---	--	--

6. 本時の指導

(1) 目標

友達と作品を読み合い、お互いの作品のよさについて気が付き、それらを基に自分の文章を見つめ直すことができる。(【思考力・判断力・表現力等】B(1)カ)

(2) 展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問 ・子どもの反応	○教師の留意点 ☆評価(方法)
2	1. 学習問題を確認する。 友達と作品を読み合い、自分の作品を見つめ直そう。	○迅速に学習問題について確認できるように、単元計画を掲示しておく。
5	2. カンファレンスの流れを確認する。 カンファレンスの質問項目 ～褒め褒めタイム～ ①1番伝えたかったことはなに？ ②どうしてそれを伝えたかったの？ ③そのために工夫したことは？ ④出来は何点ぐらい？ ⑤困っていることはある？ ～フリートーク～	○前時で、随筆を書く際の虎の巻を頼りに、カンファレンスの質問項目を子どもと一緒につくる。 ○円滑にカンファレンスに取り組めるように、1人目の作品を読んでおく。 ○お互いの作品のよさを見つけるために、最初は文章のよいところを伝え合うようにする。
2 5	3. カンファレンスを行う。 ◎フリートークでは、どんな話が出ましたか。 ・言葉の使い方が上手だねと話しました。 ・どうしてこの文章構成にしたのか聞きました。 ・どうしてこの題名にしたのか聞きました。 ・文章の終わり方に納得していなかったので相談しました。	○片方の質問が終わったら質問者を交代することを伝える。 ○質問を終えたらフリートークを行うことを伝える。 ○より明確に、自分の考えをもたせるために、3人以上と話せるようにする。 ○フリートークで出た話題を共有し、2人目以降のフリートークの内容を考える手助けにする。
5	4. 国語日記を書く。 ◎カンファレンスをしてみてどうでしたか。	○机間指導をし、子どもたちが書いた内容を把握する。
8	5. 友達と文章を読んで伝え合ったことを振り返り、全体で共有する。 ◎カンファレンスをしてみてどうでしたか。 ・自分であまり納得していないところがあったけど、友達に相談して納得のいく文章が思いつきました。 ・友達の例えの出し方とか、表現の仕方がよかったので、読んでいておもしろかったです。 ・自分で書いていて気がつかなかったことも、友達と読み合うことで気がついたので、人と読み合うことは大事だなって改めて思いました。 ・同じ質問に何回も答えることで、自分の考え	○同じ質問に繰り返し答えることで、自分の考えや答え方の変容に気が付き、その意義を実感させる。 ○お互いの文章の良さを見つけることで、次の文章を書く時の参考にしたり、随筆に生かそうとしたりする態度を認める。 ○様々な考えに触れることで、協働的な学び合いの相互作用の価値に気が付かせる。 ☆友達と作品を読み合い、友達や自分の文章のよさに気が付き、自分の文章を見つめ直している。(㊤態度・発言・ノート)

	がよりわかってきたような気がします。	
--	--------------------	--